

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年9月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年9月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:276、回収数:106、回収率:38.4%、回収期間:2024年9月20日~9月30日)
本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (7月~9月)	見通しDI (10月~12月)
合計(N=106)	55.0	59.9
行政・協会(N=42)	64.3	66.7
宿泊施設(N=23)	37.0	44.6
集客施設(N=13)	55.8	61.5
飲食・物販(N=8)	68.8	62.5
交通・代理店(N=15)	50.0	61.7
その他(N=5)	50.0	60.0

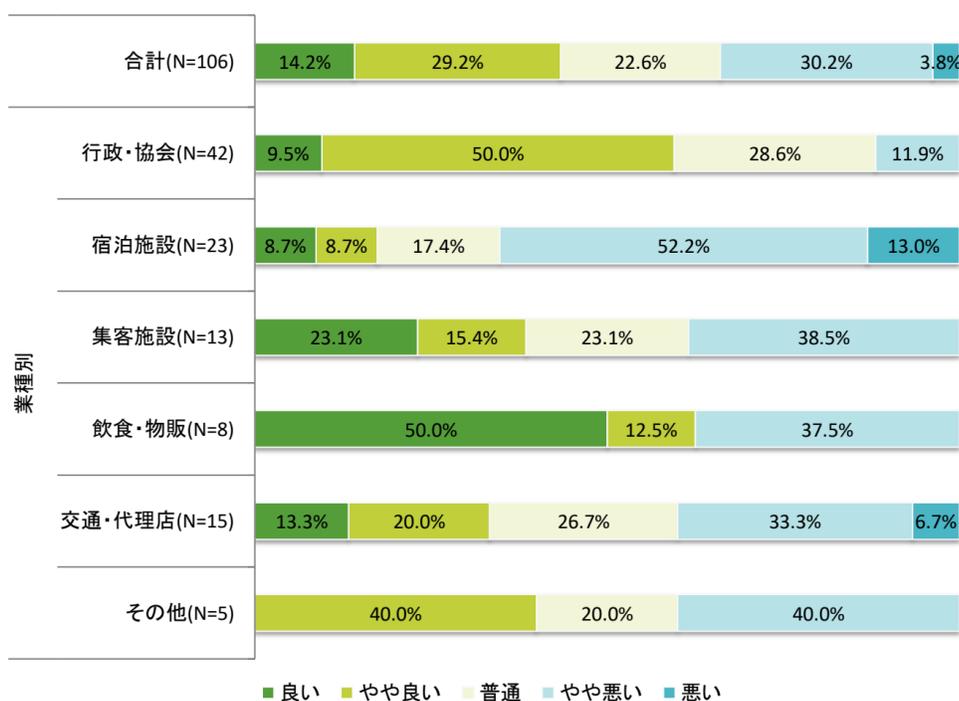
7~9月の熊本県の現状判断DIは55.0となり、前期(54.1)から0.9pt上昇した。業種別にみると、行政・協会、集客施設、飲食・物販の3業種で景況判断の節目である50を上回った。

好況の要因としてインバウンド需要の増加を指摘するコメントが多くみられた。また、コロナ禍からの経済活動の正常化に伴い、人流が前年を上回って推移していることを指摘する声もあった。一方、業況の悪化を指摘するコメントにおいては、猛暑、物価高騰の影響を指摘する声が多かった。

見通しDIは59.9となり、前回(59.3)から0.6pt上昇した。宿泊施設を除く5業種でDIが50を上回った。

見通しを判断する要因として、行楽シーズンに突入するため団体旅行の増加が望めること、イベントの開催に期待する声が見られた。

2. 7~9月期の動向、景況感

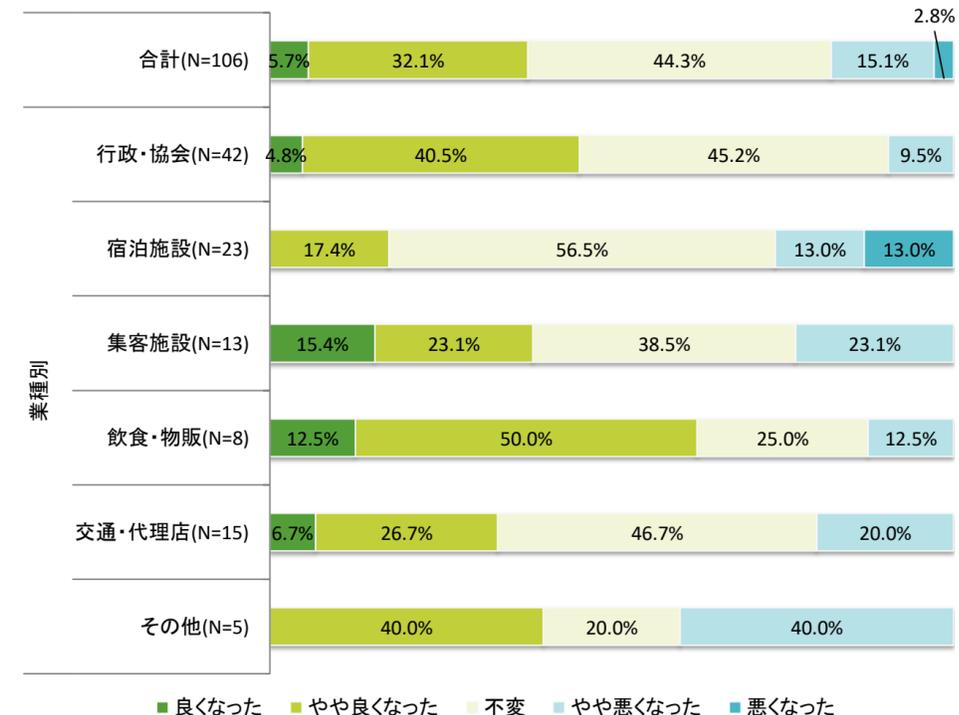


7~9月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が43.4%、「悪い」と「やや悪い」の合計は34.0%となった。業種別にみると、行政・協会、飲食・物販で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占めた。

【コメントの抜粋】

- 良い
インバウンドの激増(集客施設・交通・宿泊施設)
- やや良い
九州中央自動車道山都通潤橋IC開通に伴う、交通量の増加。(集客施設)
コロナの影響も完全になくなり、大きな自然災害等もなかったため(交通・代理店)
- 普通
去年と比べお客様の動きが少し減ったため(宿泊施設)
輸送人員全体は2019年水準近くで推移しているが、旅客誘致の成果を得られてないため普通とする。(交通・代理店)
- やや悪い・悪い
4月~6月期「復興キャンペーン」として宿泊補助をご支援いただいた後、夏休みにもかかわらず宿泊状況が悪い旨伺っている(行政・協会)
猛暑と物価高の影響(集客施設)

3. 4~6月期に比べた7~9月の動向、景況感

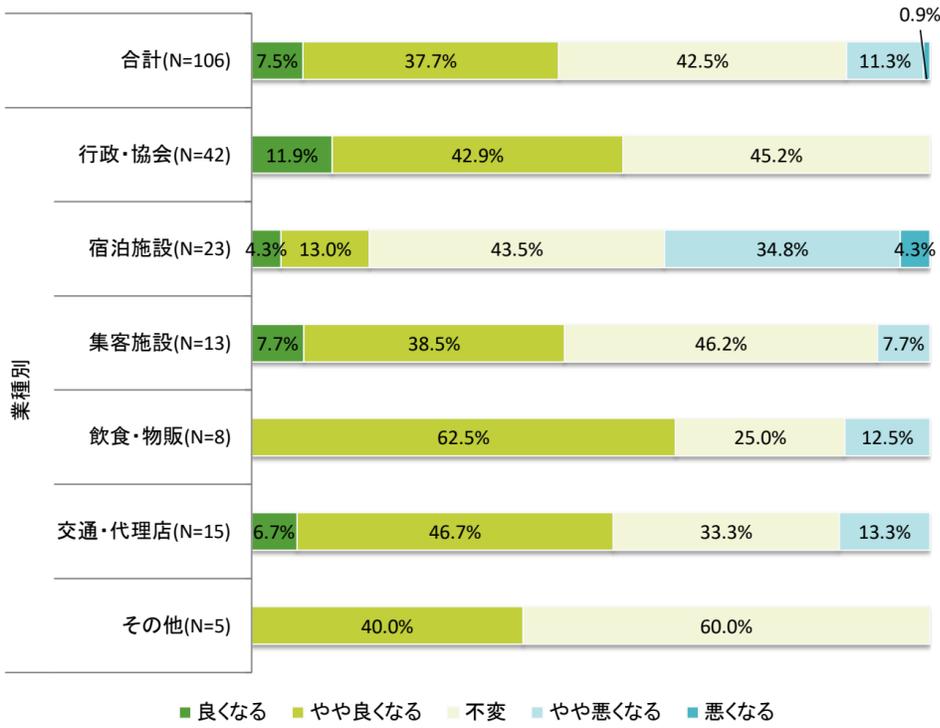


4~6月期に比べた7~9月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が37.8%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は17.9%となった。業種別にみると、飲食・物販で「良くなった」と「やや良くなった」の合計が過半数を占めた。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
外国人観光客の増加(行政・協会)
- やや良くなった
夏休み需要も前年超過しており、日が経過するにつれて堅調に推移しているため(交通・代理店)
- 不変
お盆などを抜いて考えるとあまり変わらない(宿泊施設)
季節的な要因(夏休みなど)で客数・売り上げともに増えてはいるがそれ以外では特に大きな要因もないため。暑さが厳しいため避暑目的の訪問はある。(観光案内・物販など)
- やや悪くなった・悪くなった
宿泊補助キャンペーン直後で、人の出が減少傾向(行政・協会)
物価高、酷暑、台風等の異常気象で、客数減による売上が少し減少気味(飲食・物販)

4. 今後、12月までの業況の見通し



今後12月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は45.2%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は12.2%となった。

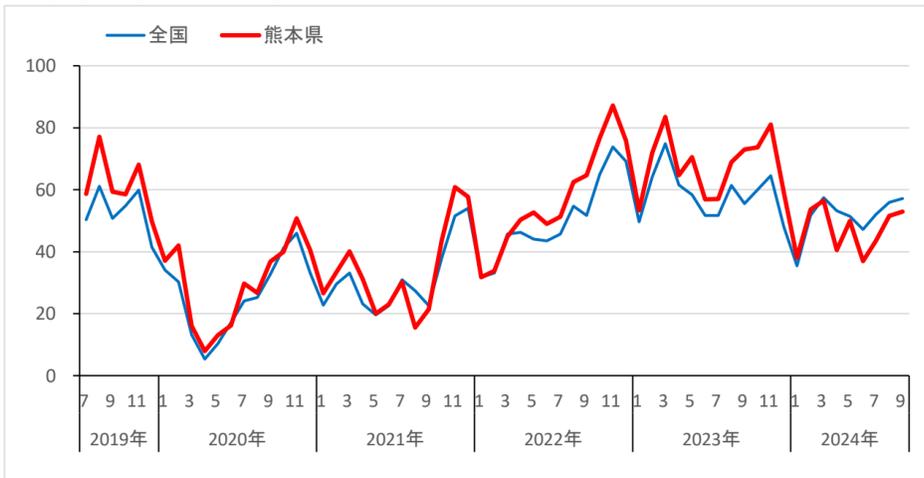
業種別にみると、行政・協会、飲食・物販、交通・代理店の3業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占めた。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
インバウンド需要(団体、FIT)の高まり(宿泊施設)
- やや良くなる
TSMC関連等の希望的観測を含め、風評被害の収束と食関連イベントなどの盛り返しに期待。(行政・協会)
夏旅から秋旅へシフト。団体旅行の繁忙期(交通・代理店)
- 不変
秋の集客状況がまだ読めない。(飲食・物販)
季節要因以外での大きな要因はマイナスでもプラスでも特にないため(観光案内・物販など)
- やや悪くなる・悪くなる
物価の高騰(宿泊施設)
修学旅行が10月11月を中心に増えていかないといけないところだが、現時点での予約はまだ想定に達していない。行楽シーズンでどれくらい大型の動きがあるかを注視していきたい。(集客施設)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2019年7月～2024年9月)

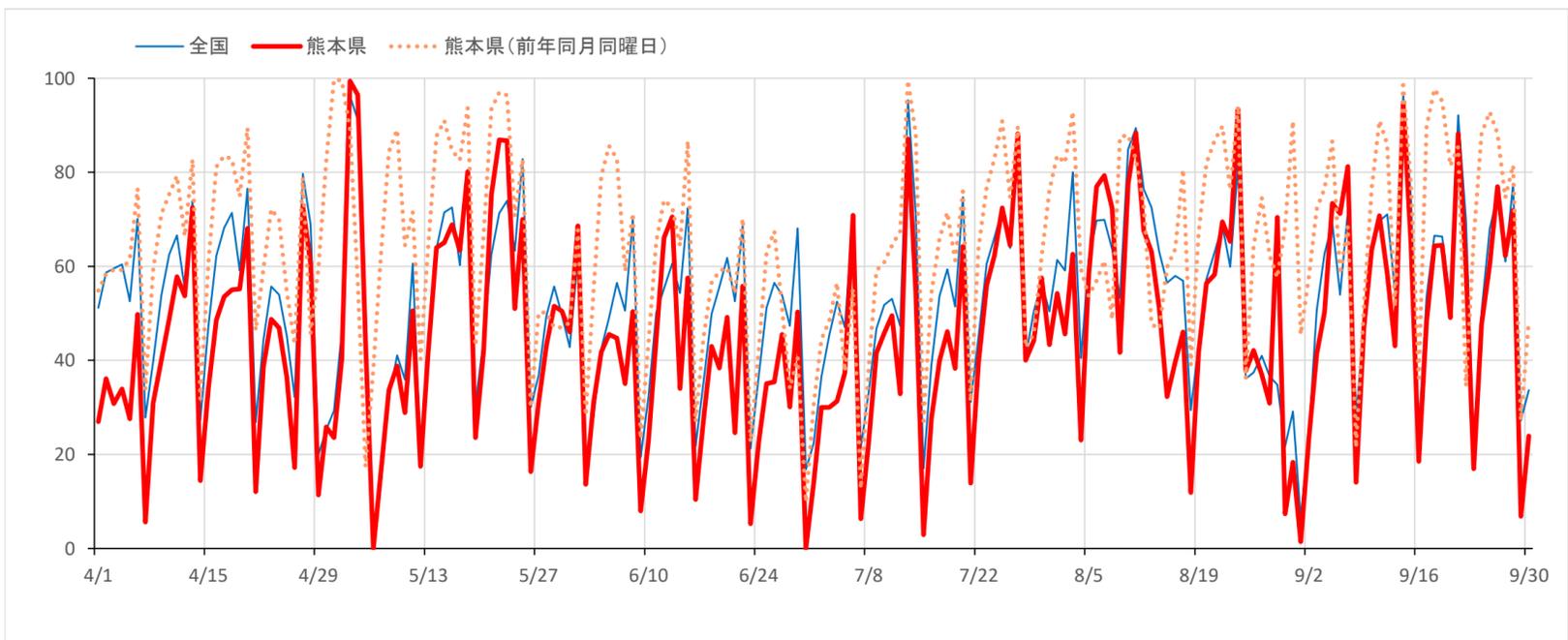


2024年7月における熊本県の宿泊稼働指数は43.6(前年同月差▲13.4pt)、8月は51.6(同▲17.3pt)、9月は52.9(同▲20.1pt)となった。

2023年10月から2024年9月にかけて12か月連続で前年同月の指数を下回った。コロナ禍後の経済活動の正常化が進む一方、旅行支援施策の縮小などを要因として指数は一服している。また、2024年3月から同年9月にかけて7か月連続で全国の同指数を下回った。

地域別にみると、JASM第一工場が竣工、開所して地域の建設需要が一服したことを受け、前期に引き続き、菊陽町、大津町など菊池地域では指数が低位にとどまっている。一方、荒尾市、玉名市、水俣市では直近3か月の宿泊稼働指数がいずれも60を上回り、特に8月には70を上回る水準で推移した。

②日次別(2024年4月1日～9月30日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、7月上旬から8月下旬にかけて緩やかに上昇したのち、9月上旬から9月下旬にかけては横ばいで推移している。夏休みやお盆のシーズンは平日・土日で大きな差がないまま宿泊稼働指数が推移した。7～9月で最も指数が高かったのは、敬老の日3連休の初日にあたる9月14日の94.7であった。

前年と比較すると、7月は前年差マイナスの日が30日間、8月は22日間、9月は26日間みられ、前年と比べて宿泊稼働指数は低調に推移した。

全国と比較すると、前年は木曜日から日曜日にかけてほとんどの日において熊本県が全国を上回っていたが、今期は平日・土日祝日において熊本県が全国を下回る日が多く、7月はその傾向が顕著であった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。